

南琉球語・八重山地方に見られる 視点移動型の指示詞体系

令和7年度 第2回「危機言語の保存と日琉諸語のプロソディー」

合同研究発表会

2026年3月15日（日）国立国語研究所

荻野千砂子（福岡教育大学）

目次

- 1 先行研究 「近称ku-系・中称u-系・遠称ka-系」というが……
- 2 調査地点
- 3 場所kamaは確かに遠称っぽい
- 4 kamaは「遠称」ではなく、uma/kuma からの「離」
- 5 モノkariは「遠称」か？
- 6 モノkariも「遠称」ではなく、uri/kuri からの「離」
- 7 「離」以外のkariの素性

1 先行研究 「近称ku-系・中称u-系・遠称ka-系」というが……

琉球列島の言語（八重山方言） 代名詞 亀井孝・河野六郎・千野栄一（1997） p. 407

石垣方言			
	近称	中称	遠称
もの/人	kuri	uri	kari
	「これ」	「それ」	「あれ」
場所	kuma	uma	kama
	「ここ」	「そこ」	「あそこ」
連体的	kunu	unu	kanu
	「この」	「その」	「あの」
	近称	中称	遠称
指示詞系統	ku-系	u-系	ka-系

石垣市 宮良と川平

	ku-系	u-系	ka-系
宮良	kuri	uri	kari
	kuma	uma	kama
	kunu	unu	kanu
川平	kuri	uri	kari
	kunu	unu	kanu
	kuma/ku	uma/u	kama/ka

ku-系 u-系 ka-系 パラダイム 揃う

竹富町 黒島と鳩間島

	ku-系	u-系	ka-系
黒島	kuri	uri	hari
	kuma	uma	hama
	kunu	unu	hanu
鳩間	kuri	uri	kari
	kunu	unu	kanu
	kuma	uma	kama

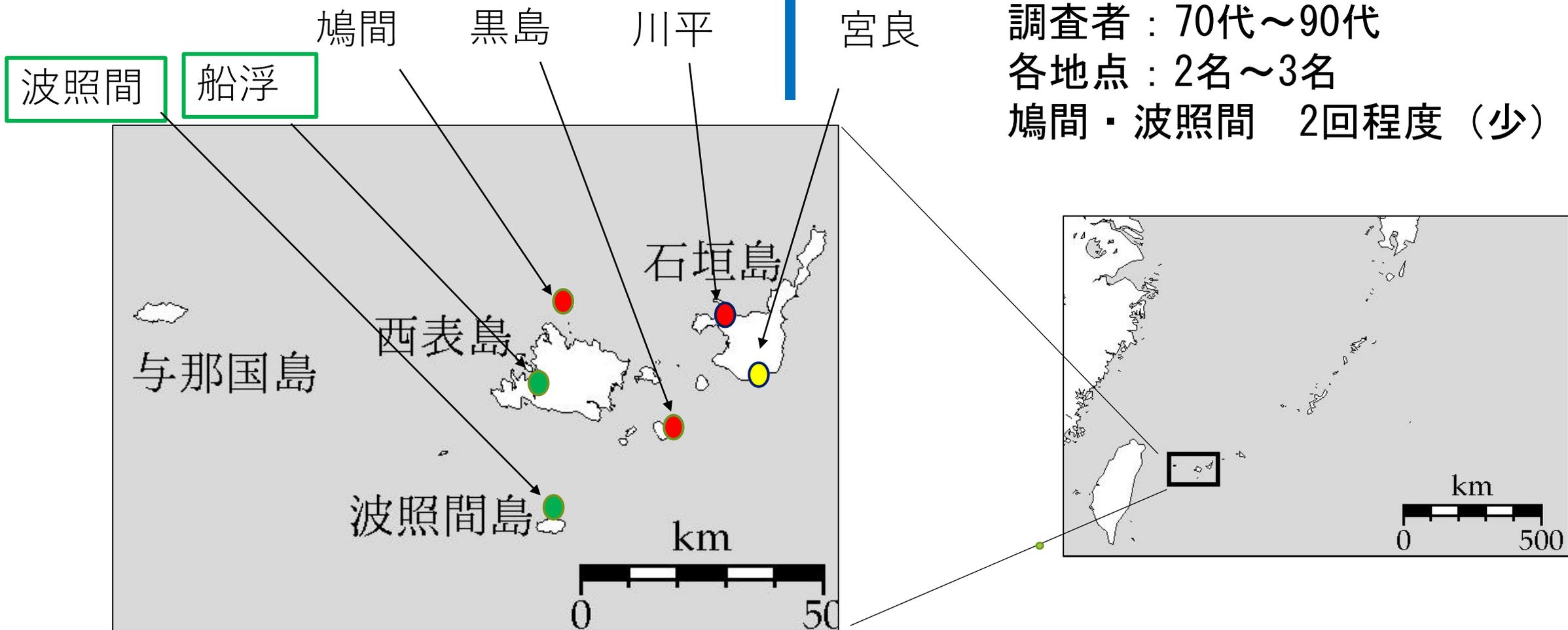
鳩間：黒島からの移住
鳩間方言 加治工真市（2020）

竹富町 西表西部の船浮 と 波照間

系統	ku-系	u-系	ka-系	
船浮	kuri	uri	(kari)	(?ari)
	kunu	unu	(kanu)	
	kwã (kuma)	(uma)	kama	ka-Nta
波照間	kuri	uri	×	
	kunu	unu	×	
	mo	naa	ha	

モノ・連体 場所 kari・kanu ×
 ka-系 ○

2 調査地点



国土地理院発行の地図データをもとにThomas Pellard氏が作成した地図に加筆をしている

3 場所kamaは確かに遠称っぽい (モノ指示は後で)

- ・ 南琉球八重山地方 **場所 ka-系**
- ・ モノ指示 距離に関係ない例 散見 (よく分からないので後で)

(1)	{ kuri /?uri/×kari}=du	ni+nu+hwa	busl=dara.
	{これ/それ/あれ} =焦点	子の方	星=終助詞
	(斜め上) 「 あれ は、北極星だよ」 (川平)		

モノ・夜・既知

(2)	{×kure/ ure / kare }=e	noo=nu	hakari=gaja ?
	{これ/それ/あれ} =焦点	何=属格	あかり=終助詞
	(地平線・横) 「 あれ は、何の光かな？」 (川平)		

モノ・昼・未知

連体詞のunu/kunuは、uri/kuriと同じ用法

(3)	{×kuma/×uma/ <u>kama</u> }=na	aru	pusl=du	ninuhwa	busl=dara.
	{ここ/そこ/あそこ} =場所	ある	星=焦点	北極星	星=終助詞
	(斜め上) 「あそこにあるのは、北極星だよ」				

夜・場所

(4)	{×kuma/×uma/ <u>kama</u> }=na	aru	hakari=ja	noo=nu	hakari=gaja ?
	{ここ/そこ/あそこ} =場所	ある	あかり=主題	何=属格	あかり=終助詞
	(地平線・横) 「あそこにあるのは、何の光かな」				

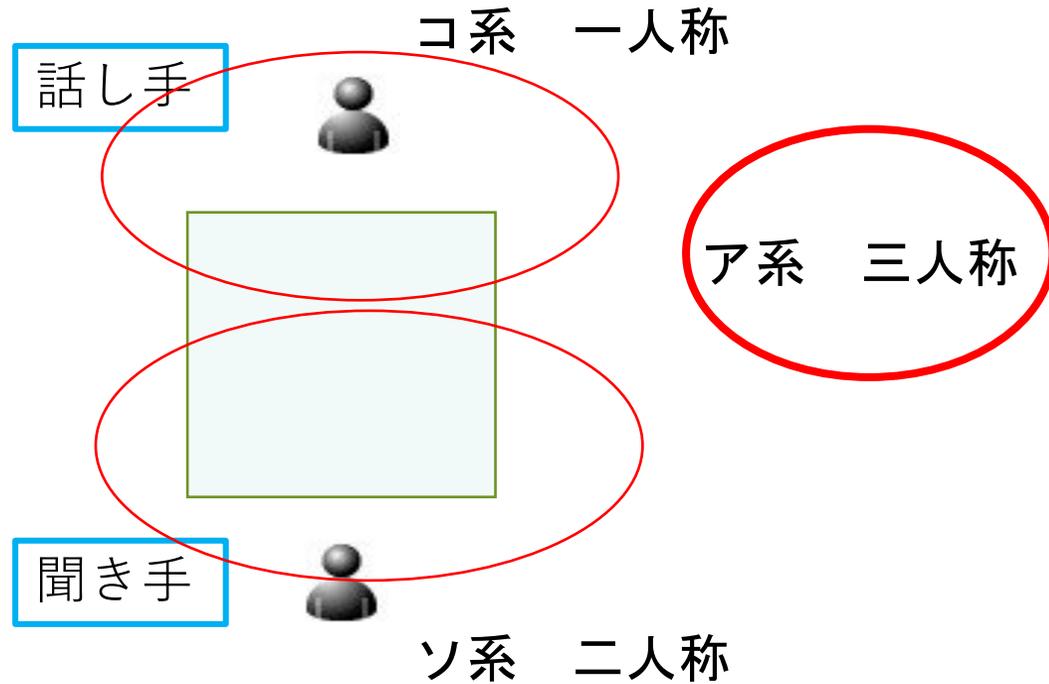
昼・場所

	場所			モノ		
系統	ku-	u-	ka-	ku-	u-	ka-
昼間	×	×	○	×	○	○
夜	×	×	○	○	△	×
	「非遠」っぽい		「遠」っぽい	?	何でも	?

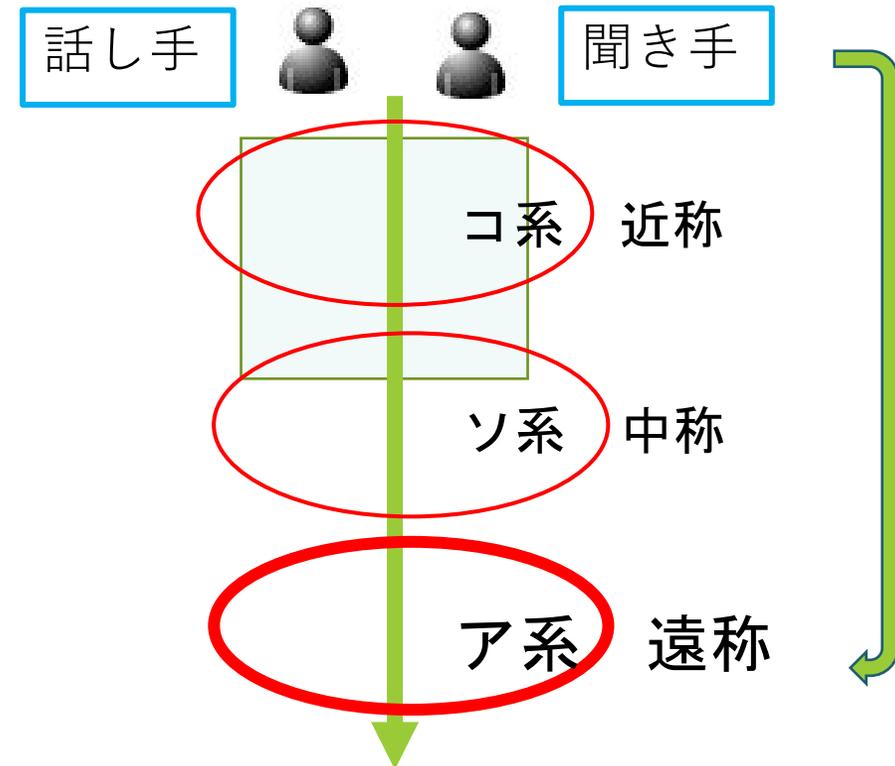
場所： kama → 確かに「遠称」っぽい

4 kamaは「遠称」ではなく、uma/kumaからの「離」

共通語 視点对立型

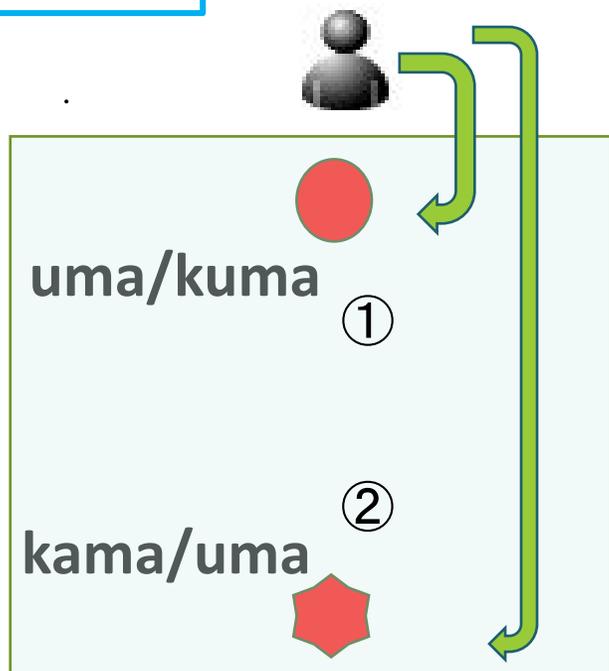


視点融合型



調査 1 場所・順行（話し手の近く→遠く①→②）・たて
 ポイント 一つずつ置く……①を置いて質問、②を置く

話し手



聞き手

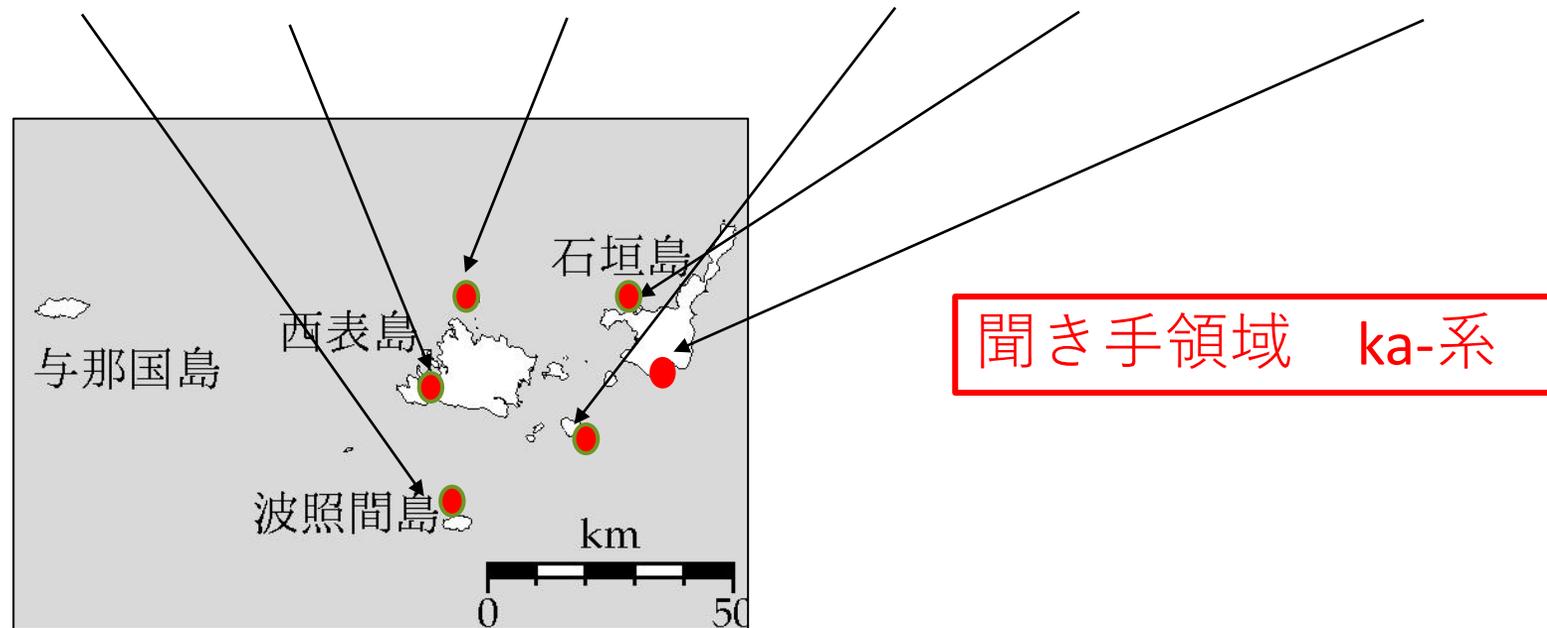
(5)	<u>uma</u> =Nga	aru	munu	noo-irja?
	そこ=場所格	ある	もの	何-コンピュータ
「そこにあるのは何か？」（宮良）				

(6)	<u>kama</u> =Nga	aru	munu	noo-irja?
	あそこ=場所格	ある	もの	何-コンピュータ
「そこにあるのは何か？」（宮良）				

聞き手領域：ka-系
 共通語のソ系が持つ二人称領域 なし

表1 話し手領域 (①) と 聞き手領域 (②)

	波照間	船浮	鳩間	黒島	川平	宮良
話し手①	(naa)	kwã	uma/kuma	uma/kuma	una	uma/kuma
聞き手②	haa	kama	kama	hama/uma	kana	kama/uma
聞き手領域 ka-系	○	○	○	○	○	○



国土地理院発行の地図データをもとにThomas Pellard氏が作成した地図に加筆をしている

調査 2 視点融合型で物理的な遠称は？

(4)	{×kuma/×uma/kama}=na	aru	hakari=ja	noo=nu	hakari=gaja ?
	{×ここ/×そこ/あそこ} =場所	ある	あかり=主題	何=属格	あかり=終助詞
(地平線・横) 「あそこにあるのは、何の光かな」					

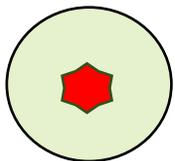
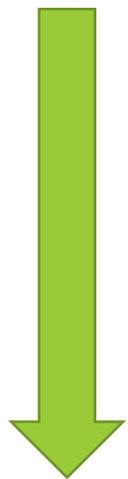
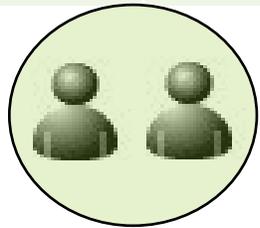


表 2 物理的距離で許容されるkama

	波照間	船浮	鳩間	黒島	川平	宮良
物理的 「遠」	○	○	○	○	○	○

表 3 共通語の体系との違い

		共通語	八重山
視点对立型	二人称領域	ソ系中称	カ系遠称
視点融合型	話し手から遠い	ア系遠称	カ系遠称

調査 3 北海道旅行中の友達へ電話

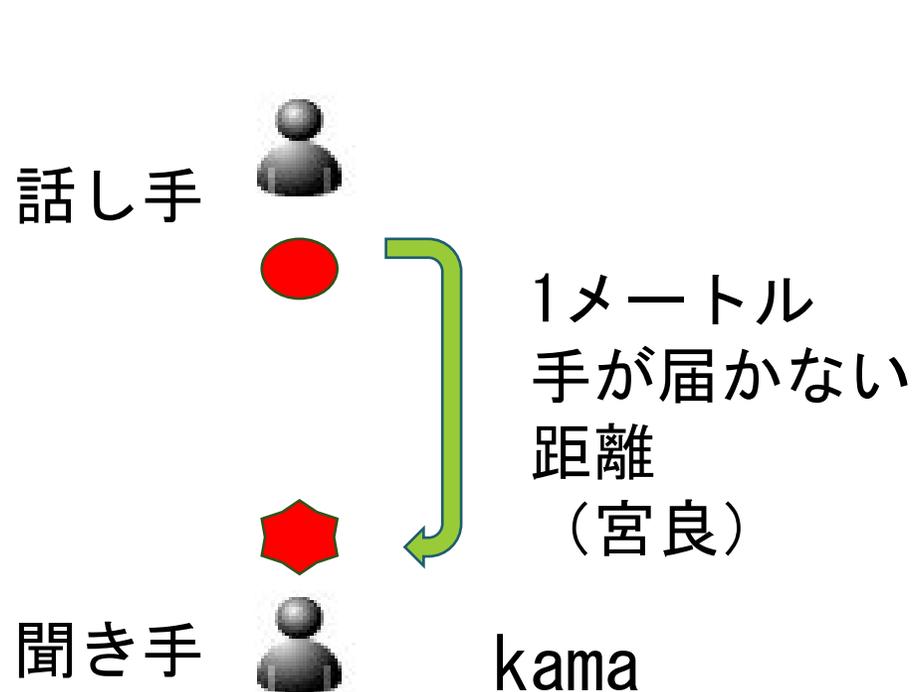
「そっちの天気はどう？」

(7)	<u>waa</u>	nee=nu	ooskl=ja	noobai=duru?
	あなた	ところ=属格	天気=主題	どのような=終助詞
「あなたのところの天気はどうか？」 (宮良)				

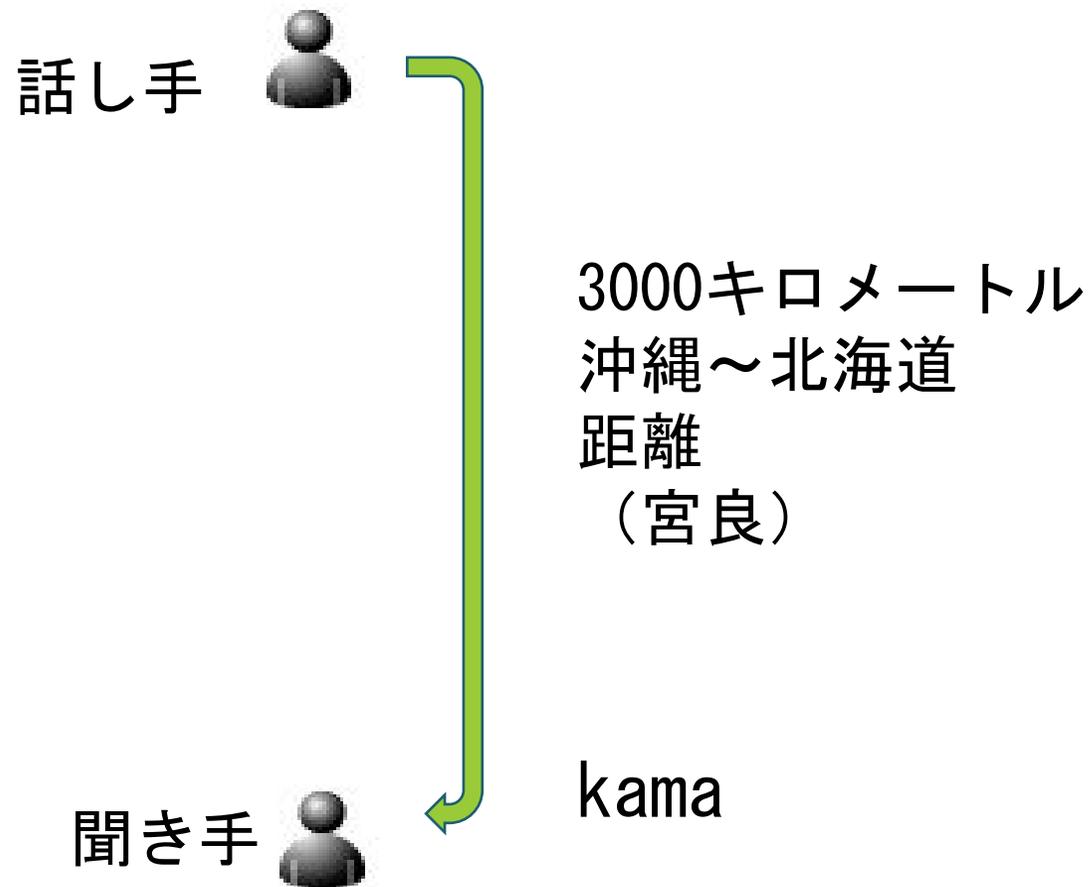
(8)	kama =Nga=nu		ooskl=ja	noobai=durja?
	あそこ=場所格=属格		天気=主題	どのような=終助詞
「 そこ の天気はどうか？」 (宮良)				

u-系中称は二人称領域と連動しない 荻野 (2015) → **人称と無関係**
川平・黒島・船浮も同じ

kamaは物理的距離ではなさそう

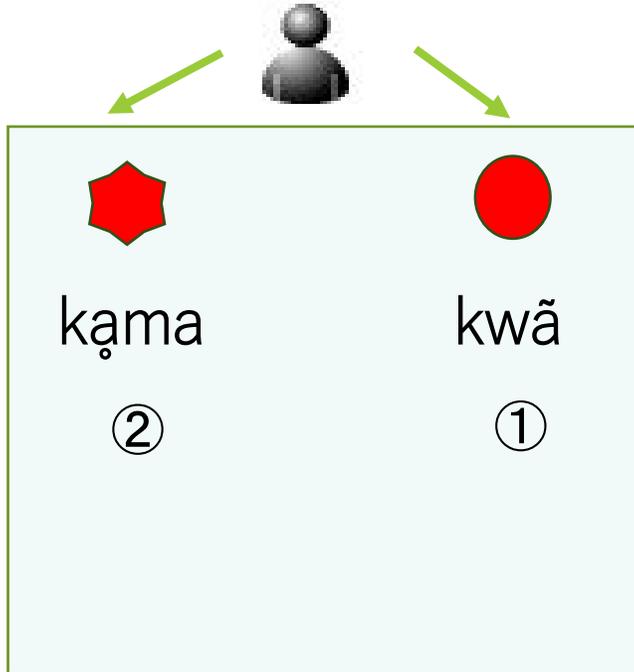


話し手から遠ければよい! ?



調査4 場所・並行（話し手から等距離 ①→②）・よこ

話し手



「ここにあるのは何か？」

(9)	kwã=nu	munu=mee	nuu-rja?
	ここ=属格	もの=主題	何-コピュラ
「ここにあるのは何か？」（船浮）			

(10)	kama =nu	munu=mee	nuu-rja?
	あそこ=属格	もの=主題	何-コピュラ
「 ここ にあるのは何か？」（船浮）			

話し手から等距離でも kama?!

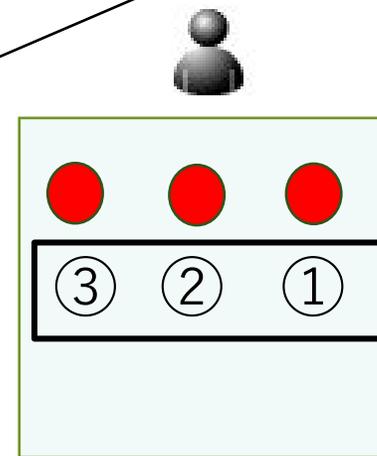
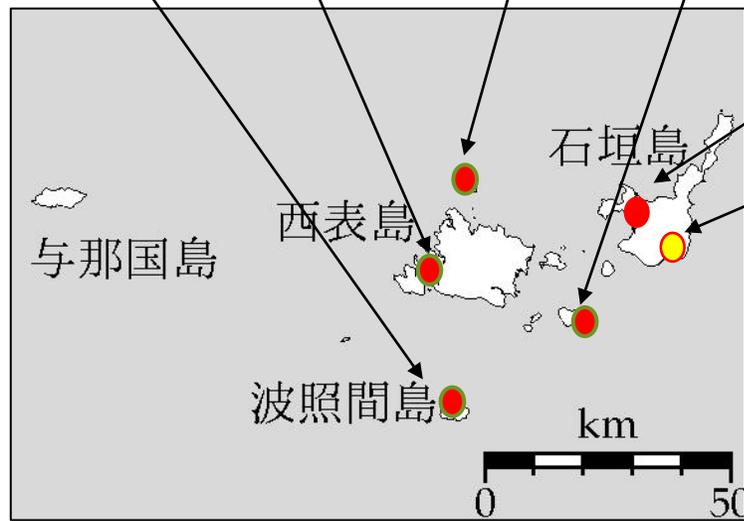
聞き手

kama 話し手から遠ければよい!?

← そうではない

表4 話し手の目の前のもの。話し手から等距離の二つ目

	波照間	船浮	鳩間	黒島	川平	宮良
話し手左①	(naa)	kwā	kuma	uma/kuma	una/kuna	uma/kuma
話し手右②	haa	kama	kama	hama/uma	una/kuna	uma/kuma
右②のka-	○	○	○	○	△	×



△の意味 三つ目

kana/kama

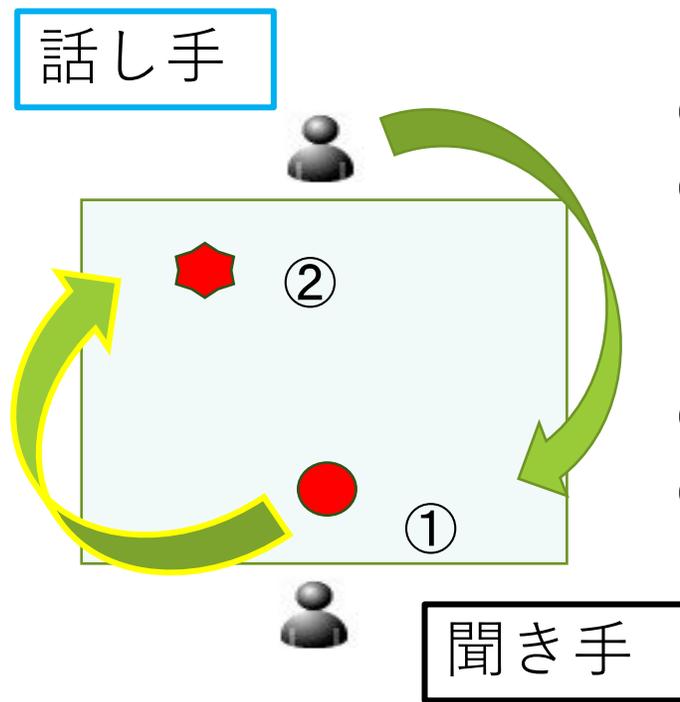
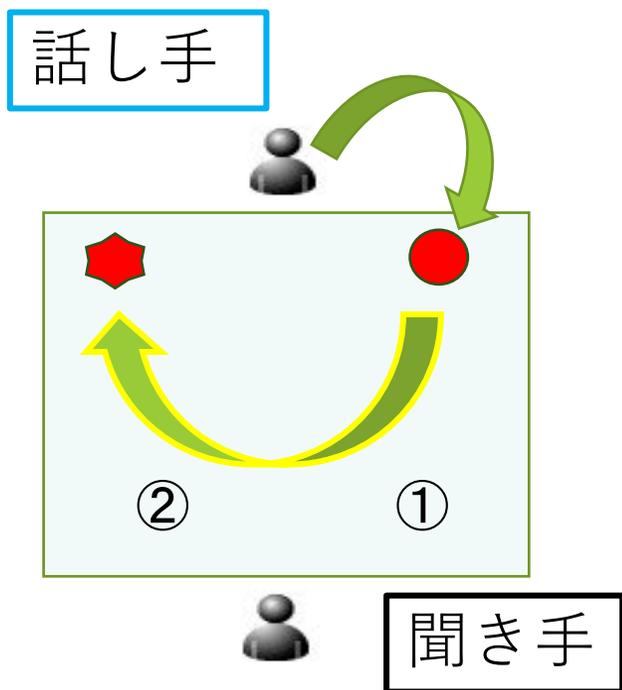
(仮説)

kama……uma/kumaからの「離れ」ではないか

①uma/kuma (話し手から近い場所)

②kama ①から離れている かつ 話し手は無関係
ただし、宮良は「話し手」との距離が必要

②とは ①からの「離」



調査 5

位置が逆転すると？

①つ目 話し手から遠い

②つ目 話し手から近い

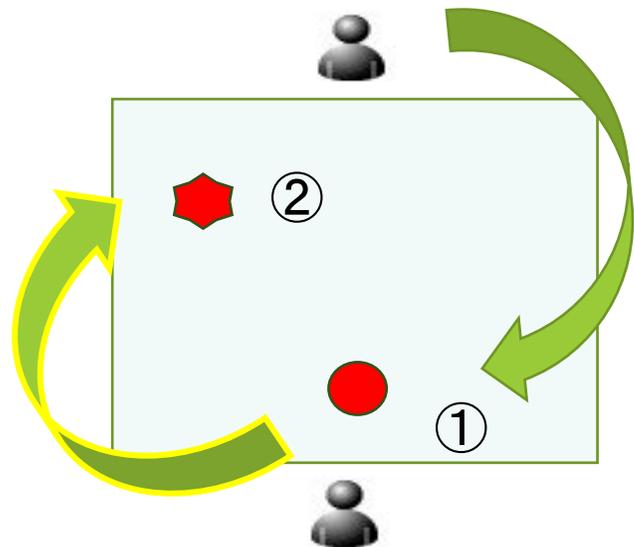
話し手から近いと

kamaは使えないかも？

①「そこにあるのは何か？」

②「ここにあるのは何か？」

②が話し手の斜め前



①は uma/kuma
必ず一つずつ置く

②が話し手の真正面

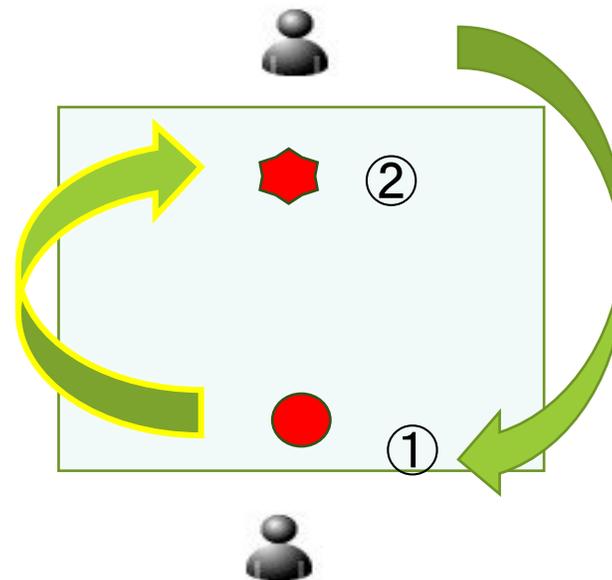


表5 話し手の近く②におけるkama使用の可否

②が話し手・近	波照間	船浮	鳩間	黒島	川平	宮良	
斜め前②	○	○	○	○	○	×	話し手・無視
真正面②	△×	×	×	×	×	×	話し手・無視不可

話し手から真正面の②が離れた場合はどうなる？！

調査6 アダン島（架空の島）がある。
アダン島の {近く/離れ} に小さな島がある。
話し手が教える。

(11)	hari=ja	adani+zima=dura.
	あれ=主題	アダニ島=終助詞
	「あれがアダニ島だよ」（黒島）	

(12)	adani+zima=nu	{uma/kuma/hama}=naa=ja	guma+sima=nu	aN=dura.
	アダニ島=属格	{ここ/そこ/あそこ}=場所=主題	小島=主格	ある=終助詞
	「アダニ島の {近く/離れ} に小さな島があるよ」（黒島）			

話し手



聞き手

砂浜

海

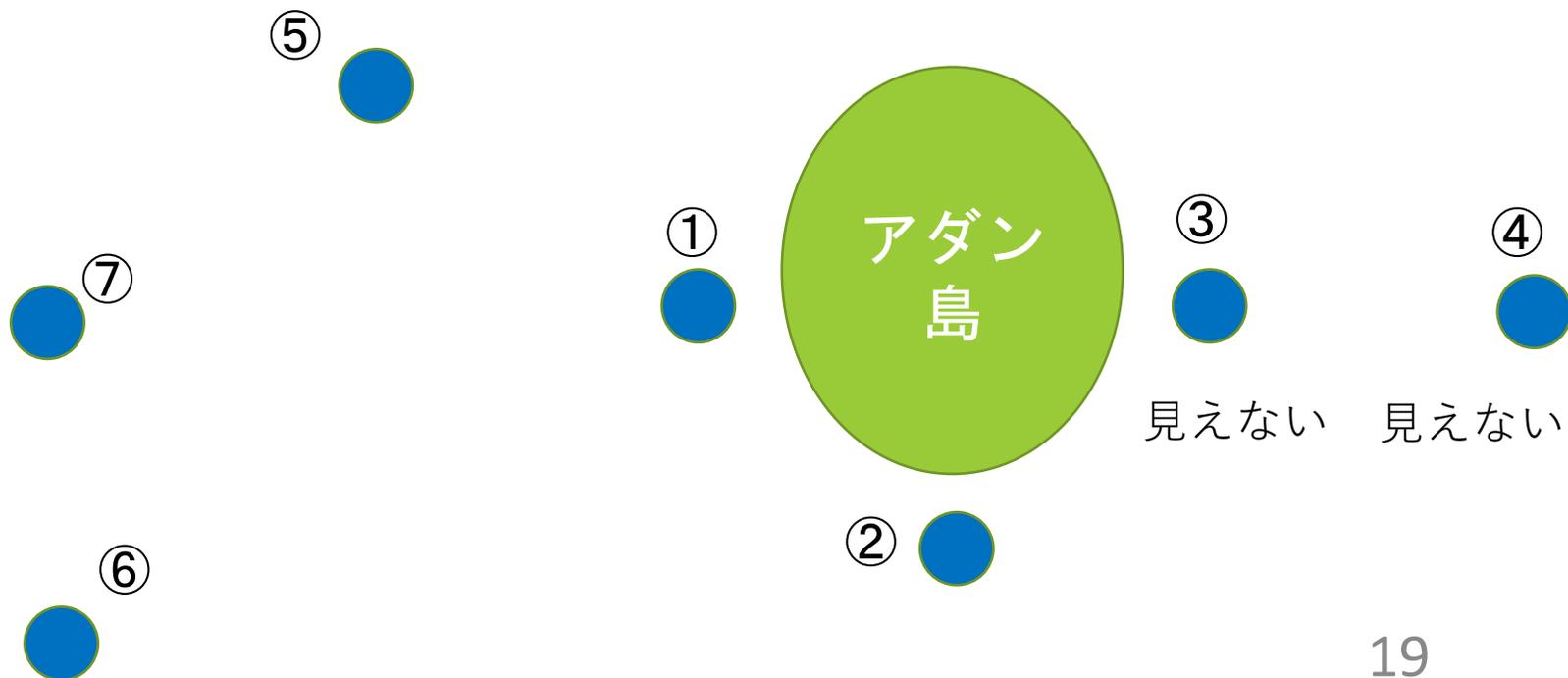
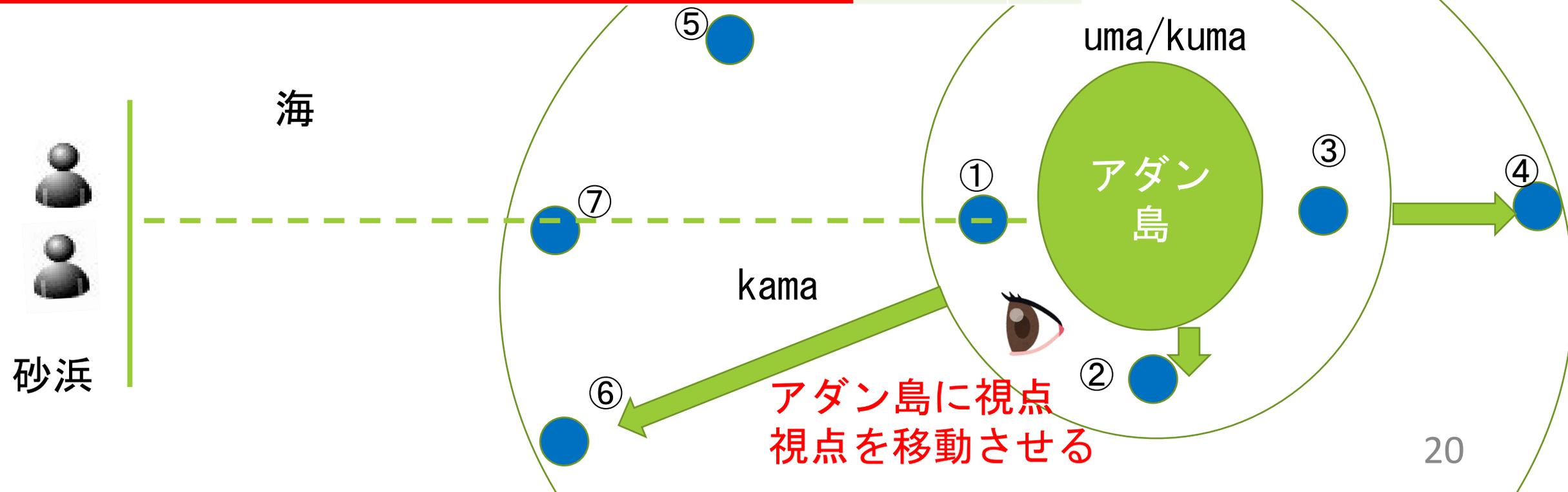


表6 kumaとumaは「近く」、kamaは「離れ」を意味する

波照間	船浮	黒島	川平	宮良2	宮良1	
hana	u-	u-/ku-	ku-	u-/ku-	u-/ku-	①
hana/naa	ka-	u-/ku-	ku-	u-/ku-	ka-	②
hana/naa	ka-/kaNta	u-/ku-	u-/ku-	u-/ku-	ka-	③
-	ka-/kaNta	ha-	-	ka-	ka-	④
hana	ka-	ha-	ku-/ka-	ka-	u-/ku-	⑤
hana	ka-	ha-	ku-/ka-	ka-	u-/ku-	⑥
hana/naa	kwā/u-	ha-/ ku-	ku-/ka-	ka-	u-/ ku-	⑦

注：そば、前、後ろ、東、西、南、北は省く

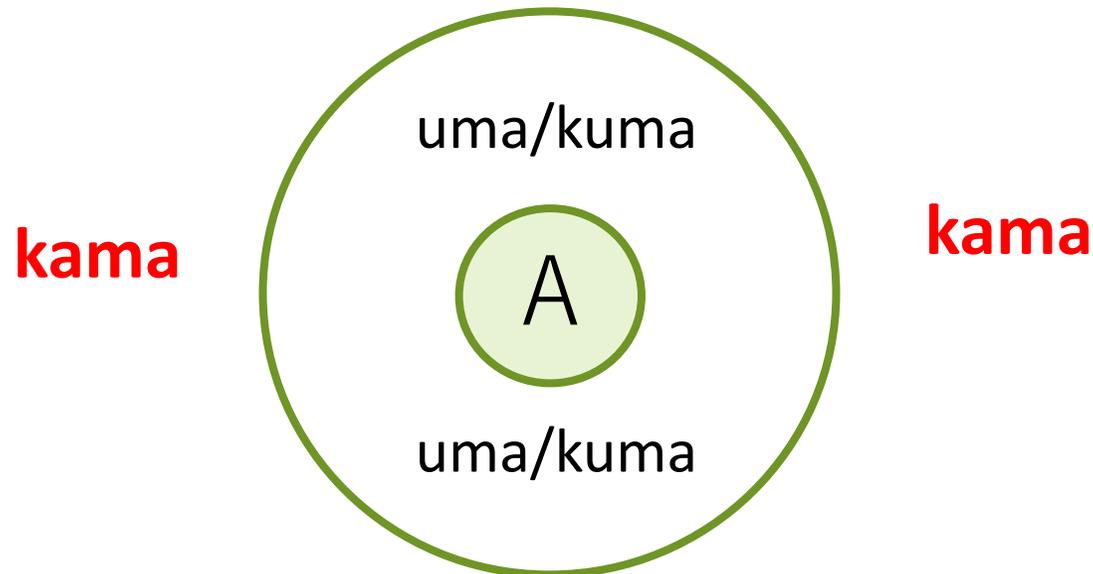


存在を明らかに知っているという状況

uma/kuma A（何でもいい）の「近く」（360度）

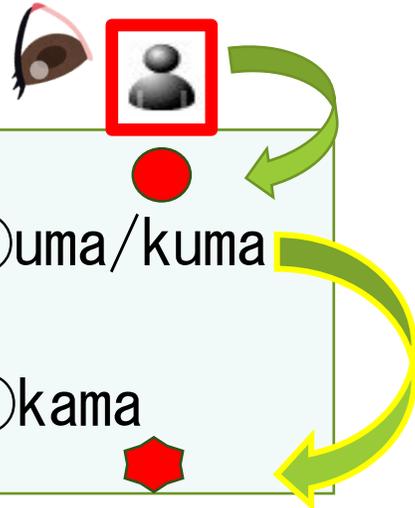
kama A（何でもいい）からの「離れ」（360度）

（以後、「離れ」を「離」と表記する）



順行

話し手



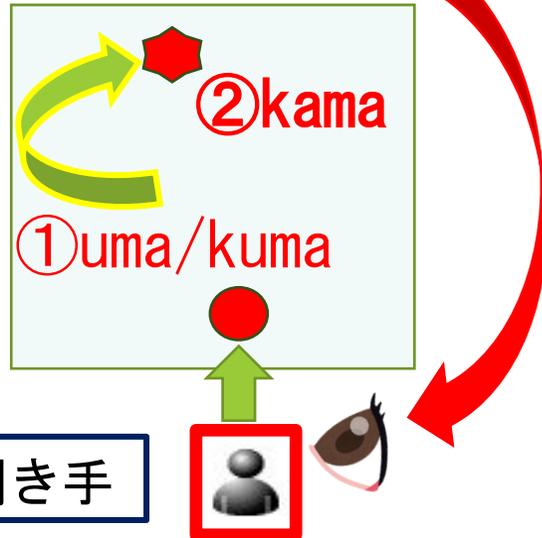
聞き手

話し手の近く
 ①はuma/kuma
 ②は①から「離」
 ↓
 ②はkama

逆行

視点移動型

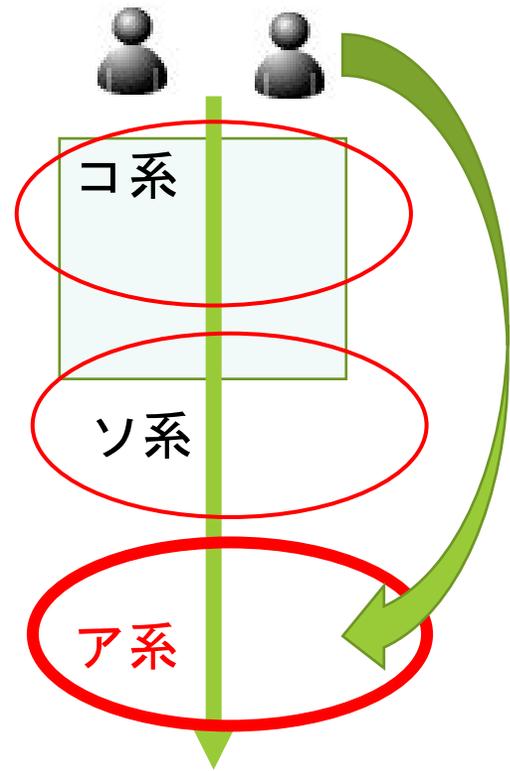
話し手



聞き手

聞き手へ視点移動
 聞き手の「近く」
 ①はuma/kuma
 ②は①から「離」
 ↓
 ②はkama

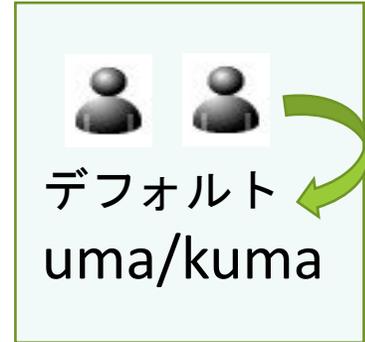
共通語
 視点融合型
 遠称 ✕



● ①あそこ

順行

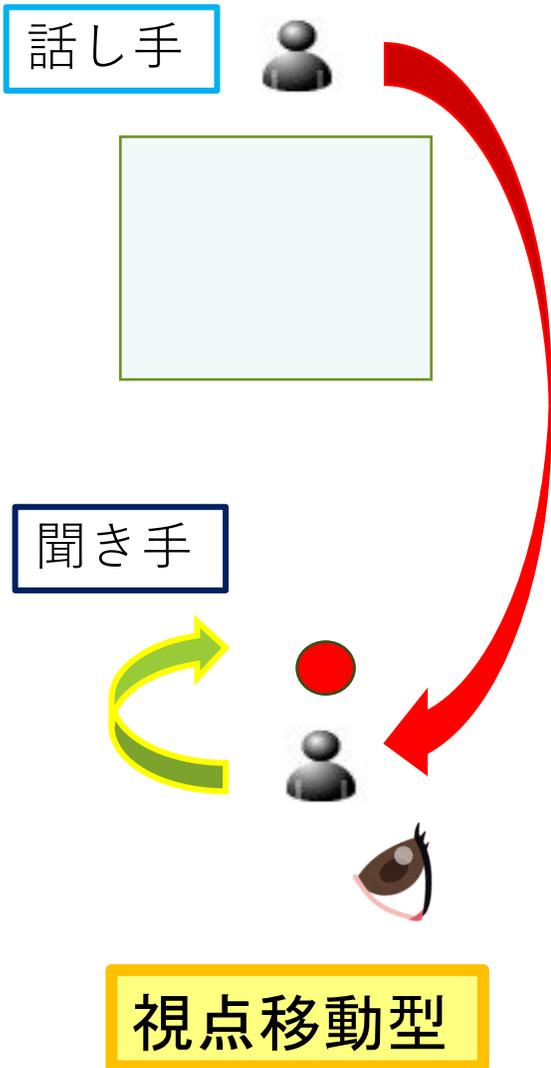
話し手



「離」

①kama

調査7 二人称に連動しているように見えるumaの正体



(13)	<u>uma</u> =Nga	aru	munu	noo-irja?
	そこ=場所格	ある	もの	何-コンピュータ
	「そこにあるのは何か？」 (宮良)			

uma 聞き手の「近く」 uma ≠ 二人称領域

子供達がボール投げをしている。話者の足下にボールが飛んできた。

子供「おじさん、投げてください」

話者「**そっち**に投げるよ」 (×uma)

(14)	<u>wada</u>	nee=gee	naNgiruN=doo.
	あなた. 複数	所=向格	投げる=終助詞
	「あなたたちの所に投げるよ」 (宮良)		

宮良「umaは自分の近くだよ。逆方向」

黒島「umaはどこかわからないよ」

uma/kumaからの「離れ」：宮良は話し手の目の前のkamaは不可

		波照間	船浮	鳩間	黒島	川平	宮良
順行kama	たて①→②	○	○	○	○	○	○
	u-からの「離れ」	+	+	+	+	+	+
並行kama	よこ①→②	○	○	○	○	3番目△	×
	話し手からの距離が同じ	++	++	++	++	++	+

視点移動とuma/kumaからの「離れ」

	視点移動型	波照間	船浮	鳩間	黒島	川平	宮良
聞き手uma	聞き手近く ①	○	○	○	○	○	○
	聞き手へ視点移動	+	+	+	+	+	+
聞き手uma 逆行kama	①→斜め前の②	○	○	○	○	○	×
	聞き手のu-からの「離れ」(非正面)	++	++	++	++	++	+
	①→真正面の②	△×	3番目△	×	×	×	×
	聞き手のu-からの「離れ」(正面)	+++	+++	++	++	++	+

5 モノkariは「遠称」か？

話し手



調査8 地平線に赤い光が見える。「あれは何だ？」

(2) {×kure/ure/kare}=e noo=nu hakari=gaja ?

{これ/それ/あれ} =焦点 何=属格 あかり=終助詞

(地平線・横) 「あれは、何の光かな？」 (川平)

表7 話し手から遠い一つのモノ

	波照間	船浮	鳩間	黒島	川平	宮良
遠・一つ	uri	uri	未	hari/uri/ kuri	kari/uri/ kuri	kari/uri/ kuri

Okama/ ×uma

船浮は kariがほぼ出ない/波照間はkariがない

Okar i/Our i/Okur i

調査 9

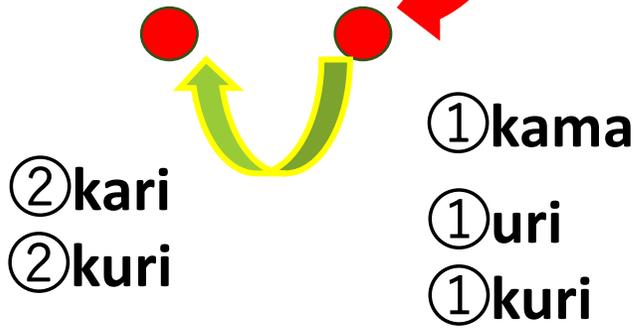


話し手から離れた二つのものを指さす、

- ・ 「あれは何だ（赤い光）？」 「あれは何だ（青い光）？」
- ・ 「あれは船かな？」 「あれは島かな？」
- ・ 「あれはアダニ島だよ。」 「あれはワラビ島だよ。」

表 8 話し手から遠い二つのモノ

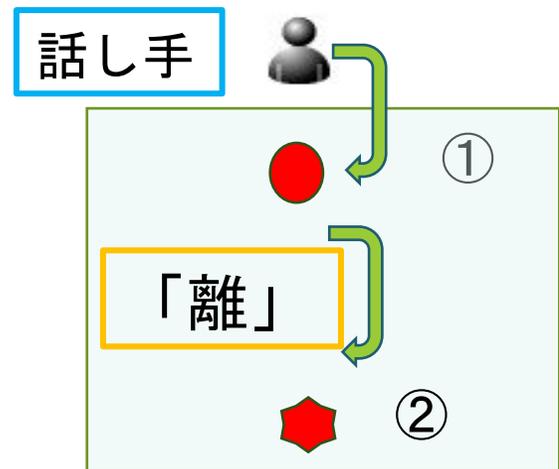
	波照間	船浮	鳩間	黒島	川平	宮良
①	uri	uri	未調査	hari	kuri	uri
②	kuri	kuri		kuri/uri	kari	kari
①	赤い光	赤い光		船	アダニ島	赤い光
②	青い光	青い光		島	ワラビ島	青い光



①からの「離」

モノは話し手からの距離に影響を受けにくい
視点移動型の体系

6 モノkariも「遠称」ではなく、uri/kuriからの「離」



調査10 「これは何か？」 「{それ/これ}は何か？」

表9 話し手に近いモノと聞き手に近いモノ

			波照間	船浮	鳩間	黒島	川平	宮良
順行	場所 kama	たて②	○	○	○	○	○	○
	モノ kari	たて②	—	—	○	○	○	○

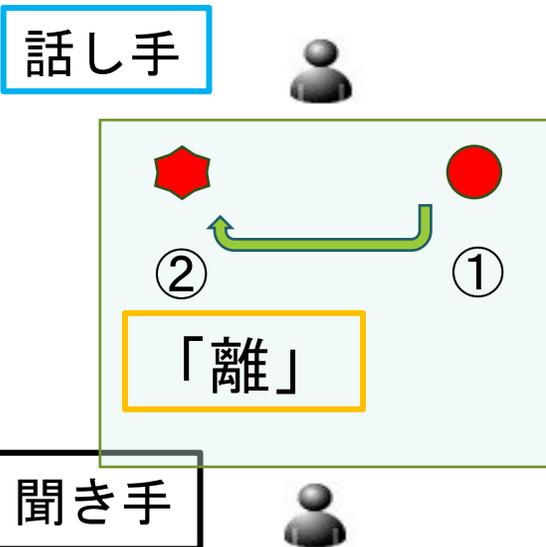


表10 話し手から等距離の二つのモノ

			波照間	船浮	鳩間	黒島	川平	宮良
並行	場所 kama	よこ②	○	○	○	○	3番目△	×
	モノ kari	よこ②	—	3番目△	○	○	○	×

視点移動型

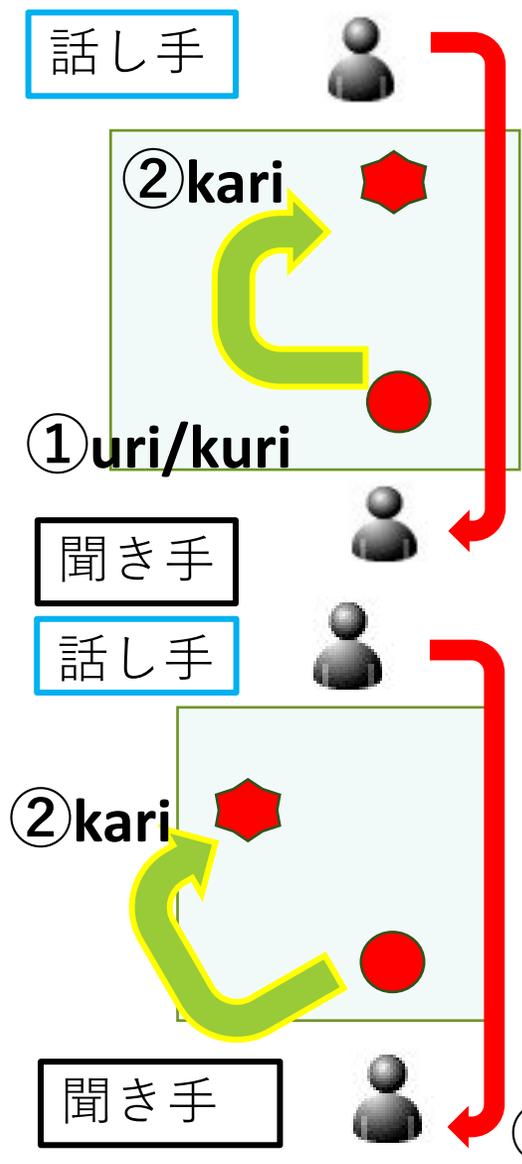


表 1 1 話し手の真正面②におけるkari使用の可否

			波照間	船浮	鳩間	黒島	川平	宮良
逆行	場所 kama	真正面かつ近②	△×	3番目 △	×	×	×	×
	モノ kari	真正面かつ近②	—	3番目?	×	○△	×	×

表 1 2 話し手の斜め前②におけるkari使用の可否

			波照間	船浮	鳩間	黒島	川平	宮良
逆行	場所 kama	斜め前かつ近②	○	○	○	○	○	×
	モノ kari	斜め前かつ近②	—	3番目?	○	○	○	×

kari 視点移動型で説明可能

調査 1 1

私が帰ろうとして入り口まで行っている。
話し手が忘れ物に気づく。「ほら、**これ**、忘れていたよ」

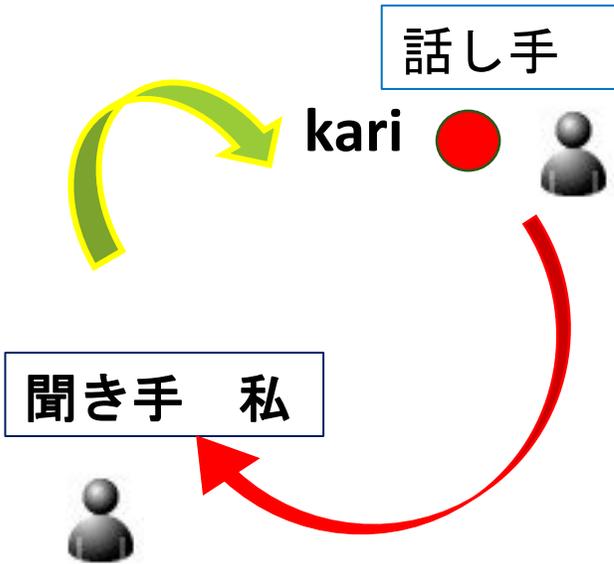


表 1 3 話し手の近くにある、聞き手の忘れモノ

	黒島	川平	宮良
聞き手の忘れモノ	hari	kari	×

まとめ

- 場所は話し手の居る場所がデフォルトでuma/kuma
- 場所 kama……uma/kuma から「離」→「遠称っぽい」
- モノは話し手から遠くても認定できればuri/kuri
- モノ kari ……uri/kuri から「離」
- 視点移動型：一つ目の場所やモノに視点を移すことが可能
- 一つ目がu-系であり、そこからの「離」がka-系

視点移動型

7 「離」以外のkariの素性

モノ kari 「朧ろ」 vs kuri 「明白」
モノ kari 「未知」 vs uri/kuri 「既知」

調査 1 2 隣の家の屋根に、何か黄色いものが見える。「あれ、何かな？」
同じモノ 心理的な差で変化

(15)	<u>uree</u>	noo=gaja.
	あれ. 主題	何=終助詞
	「あれ、何かな？」（川平） 心中：タオルだろうな	
(16)	<u>karee</u>	noo=gaja.
	あれ. 主題	何=終助詞
	「あれ、何かな？」（川平） 心中：全く想像できない	

調査 1 3 親が子供の部屋に入ると、子供が後ろに何かを隠した。
 親が問う。「それは何か？ 見せなさい」 **見えない何か**

(17)	{ <u>ure</u> / hare }e *kuree	nuu=du	aa=ra?
	{それ/ あれ }. 主題	何=焦点	ある=終助詞
	「それは何だ？」 (黒島)		

調査 1 4 私が新しい人を連れてくる。家の前で話者が私たちに気づく。
 「あんた、また来たの？ ん？ **その人**だれ？」 (黒島・船浮)

昼間 (夜でも明るい) : unu pitu / kunu pitu

夜暗い (夕暮れ時) : **kanu** pitu ← **顔が見えないから**

今後の課題 モノ指示のkari/uri/kuriの素性・ku-系とu-系の違い

参考文献

- 内間直仁 (1994) 『琉球方言助詞と表現の研究』 武蔵野書院
- 荻野千砂子 (2015) 「南琉球八重山地方石垣宮良方言の指示代名詞」 日本語学会2015秋季大会発表会, 発表要旨『日本語の研究』 12(2), 92-93
- 荻野千砂子 (2024) 「八重山黒島方言の指示詞体系について」 『日本方言研究会研究発表会発表原稿集』 118, 49-56, 日本方言研究会
- 荻野千砂子 (2025) 「八重山西表船浮方言の指示詞語根「カ」」 『日本方言研究会研究発表会発表原稿集』 120, 25-32, 日本方言研究会
- 加治工真市 (2020) 『鳩間方言辞典』, 国立国語研究所
- 亀井孝・河野六郎・千野栄一 (1997) 『言語学大辞典セレクション 日本列島の言語』, 三省堂
- 金水敏(編)・田窪行則(編) (1992) 『指示詞』 (日本語研究資料集 第1期第7巻), ひつじ書房

【謝辞】 本発表は、JSPS科研費JP22H00007、JP24K03871、JP24K00073、国立国語研究所共同研究プロジェクト「危機言語・方言」の研究助成を受けています